

3	CAS 番号：120-61-6	物質名：テレフタル酸ジメチル
---	-----------------	----------------

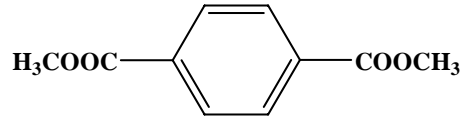
化審法官報告示整理番号：3-1328

化管法政令番号：1-206

分子式：C₁₀H₁₀O₄

構造式：

分子量：194.18



1. 物質に関する基本的事項

本物質の水溶解度は 19.0 mg/L (25°C)、分配係数 (1-オクタノール/水) (log Kow) は 2.25、蒸気圧は 0.01mmHg(=1.33Pa) (25°C)である。分解性が良好と判断されており、加水分解性による半減期は 320 日 (pH=7、25°C)である。

本物質は化学物質排出把握管理促進法 (化管法) 第一種指定化学物質に指定されている。主な用途、排出源は重合樹脂原料 (ポリエステル系合成繊維・樹脂) とされている。平成 15 年の輸出量は 7,970t、輸入量は 39,400t、化管法の製造・輸入量区分は 100,000 t である。

2. ばく露評価

化管法に基づく平成 15 年度の環境中への総排出量は 0.071t となり、すべて届出排出量であった。届出排出量の排出先は大気に 0.071t であった。この他、移動量は廃棄物へ 29t であった。届出排出量の多い業種は化学工業であった。

環境中への排出は大気が大部分を占めていたが、多媒体モデルにより予測した環境中での媒体別分配割合は大気が 63.0%、水域が 35.8%であった。

水生生物に対するばく露を示す水環境中への予測環境中濃度 (PEC) は、評価に耐える環境中濃度が得られていないため設定できなかった。

3. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 72 時間 EC₅₀ 5,270 µg/L 超、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC₅₀ 6,500 µg/L 超、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の 96 時間 LC₅₀ 53,700 µg/L 超が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度 (PNEC) として 53 µg/L 超が得られた。慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における 72 時間 NOEC 5,270 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 1,720 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値に基づく PNEC 値 17 µg/L が得られた。本物質の PNEC は、甲殻類の慢性毒性値から得られた 17 µg/L を採用した。

現時点では評価に耐える十分なデータが得られなかったため、生態リスク評価の判定はできない。生産量及び環境排出量の推移を把握した上で、環境中濃度の把握の必要性について検討を行う必要があると考えられる。

有害性評価 (PNECの根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	ばく露評価		PEC/ PNEC比	評価 結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)		
甲殻類	慢性	NOEC 繁殖阻害	100	17	淡水	—	—	×
					海水	—	—	

4. 結論

	結論	判定
生態リスク	生態リスクの判定はできない。生産量及び環境排出量の推移を把握した上で、環境中濃度の把握の必要性について検討を行う必要があると考えられる。	×

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない